

エンタープライズオープンソースソフトウェアの サブスクリプションがもたらす価値

JBoss Enterprise Middlewareを使用する理由のトップ10

目次

要旨	2
ミドルウェアのジレンマ	3
より優れたソフトウェアモデル: エンタープライズオープンソース	4
1: 影響力と裁量幅の拡大	5
2: コンポーネントではなく、エンタープライズプラットフォームの導入が可能	5
3: 予防的なセキュリティ管理	6
4: 予測可能な管理しやすいアップデートプロセス	7
5: 世界クラスのサポート	8
6: ソフトウェア専門家による信頼性の高い助言	9
7: アプリケーションインフラストラクチャの長期的な安定性	9
8: 最先端ソフトウェアのソースコードへのオープンなアクセス	10
9: 広範なパートナーエコシステム	10
10: ミドルウェアの将来に対する影響力	11
結論	11

要旨

IT部門の意思決定者の多くは、柔軟性に乏しいアップグレードポリシー、融通の利かない製品ロードマップ、法外なコストなど、数々の理由から、プロプライエタリミドルウェアソリューションを手放したいと考えています。しかし、彼らは、フリーなオープンソースソフトウェアコンポーネントを使用した場合の管理やメンテナンスの負担を気にしています。

第3の選択肢である、Red HatのJBoss® Enterprise Middlewareのようなエンタープライズオープンソースソフトウェアにサブスクライブすることは、エンタープライズクラスのサポートSLA、パッチ、アップデート、ホットフィックスの保証や法的な保証を活用しつつ、生産性と価値を高め、裁量の幅を広げたいと考えている企業にとって、ますます切実となっています。

オープンソース製品が過去10年の間に成熟するにしたがって、最もリスクを嫌うIT部門でさえ、エンタープライズオープンソースアプローチの利点を認めるようになってきました。

そうした企業の多くは、柔軟性、安定性、パフォーマンス、信頼性、可用性、自社に対する顧客満足度の向上を実現するために、プロプライエタリソリューションからの転換をはかっています。

ほとんどのITスタッフは、オープンソーステクノロジーの原則をよく知っており、自社のアプリケーションインフラストラクチャで何らかのオープンソーステクノロジーを使用しています。しかし、JBoss Enterprise Middlewareのようなエンタープライズオープンソースソリューションの概念はそれほど広くは知られていないため、この文書では、評価担当者が自社に適したミドルウェアソリューションを選択しやすいように、このアプローチの利点を概説します。

Red HatのJBoss Enterprise Middlewareには、JBossコミュニティ、Apache Software Foundation、Eclipse Foundationなど、様々なオープンソースコミュニティのソフトウェアコンポーネントが組み込まれています。それらのコンポーネントは、十分にテストされた、安定した統合ミドルウェアプラットフォームとして、管理しやすい有限な形にまとめられ、今日の企業にミドルウェアのリファレンスアーキテクチャを提供しています。

JBoss Enterprise Middlewareのサブスクリプションには、次のような多くの利点があります。

- 1: 影響力と裁量幅の拡大
- 2: コンポーネントではなく、エンタープライズプラットフォームの導入が可能
- 3: 予防的なセキュリティ管理
- 4: 予測可能な管理しやすいアップデートプロセス
- 5: 世界クラスのサポート
- 6: ソフトウェア専門家による信頼性の高い助言
- 7: アプリケーションインフラストラクチャの長期的な安定性
- 8: 最先端ソフトウェアのソースコードへのオープンなアクセス
- 9: 広範なパートナーエコシステム
- 10: ミドルウェアの将来に対する影響力

ミドルウェアのジレンマ

今日のダイナミックなビジネス環境では、情報システムに対する企業の期待が高まり、さらなるスピードと機能、より優れた統合、より高い信頼性と安定性、ビジネス要件の変化にすばやく適応できる、より柔軟性に優れたインフラストラクチャが求められています。最近の技術革新の多くは、IT部門がこれらの要件を満たす上で役立っていますが、それは同時に、現代の企業経営の複雑さを増す一因にもなっています。その結果、開発者、インテグレータ、運用スタッフは、規模や複雑さの問題への対処に多くの時間を費やしています。

彼らは、複数の開発元による多種多様なコンポーネント間の連携、分散した組織全体にわたる多数のソフトウェアインスタンスの導入、多くのシステムにまたがるデータアクセスの促進、様々なアプリケーションのパフォーマンスに関するトラブルシューティング、高レベルのシステム可用性の確保などを行っています。ITスタッフがこうした問題に費やしている時間に比べると、ビジネス要件の分析、アプリケーションの選択や開発、次期戦略プロジェクトの準備に使う時間は、多くの場合、ごくわずかです。

IT部門の意思決定者は、ミドルウェアソリューションの評価にあたって、自分のチームが日々直面している課題を念頭に置いています。機能と投資費用の折り合いを付けるだけでなく、所有に伴う継続的な運用コスト、特に彼らのチームの生産性に対する影響の評価も試みます。どのミドルウェアソリューションが自社に適しているかの判断に関して、IT企業では、以下の3つの選択カテゴリを評価するのが一般的です。

- プロプライエタリソフトウェアスイートの従来型ライセンスを、IBMやOracleといったベンダから購入します。通常、これらのソリューションには、多額のソフトウェアライセンス料金の前払いや、ソフトウェアのアップデートやサポートのための継続的なメンテナンス料金（表示ライセンス料金の20～22%）の支払いが伴います。そうしたソリューションは複雑なため、使用、管理、メンテナンスが難しい場合があります。そのうえ、ソフトウェア内部の仕組みがほとんど、またはまったく把握できず、大部分の顧客には、ソフトウェアの技術的な方向性に影響を与える機会もほとんど与えられません。
- 自由に利用できるオープンソースコンポーネントを使用して、独自のミドルウェアプラットフォームを組み立て、メンテナンスします。こうすれば、コミュニティによる急速な技術革新の利点を活かせるうえ、直接的なコストが発生せず、柔軟性も得られます。ただし、これらの利点は代償を伴います。これらの利点を実現するには、開発者と運用管理者の双方に、より高度なスキル、多大な作業、継続的な努力、それにリスクの緩和が求められます。また、独自のソフトウェアスタックのサポート、メンテナンス、アップデートに貴重な時間を費やすことになります。
- Red HatのJBoss Enterprise Middlewareなどのエンタープライズオープンソースソフトウェアが、有償のサブスクリプションによって提供されています。このソリューションは、オープンソースソフトウェアの革新性と透明性の利点を併せ持つ一方、従来型のソフトウェアソリューションによく見られるエンタープライズクラスの長期的な安定性、リファレンス実装、パートナー認定、複数年にわたるメンテナンスポリシー、SLAに基づいた開発および運用サポートによってリスクを緩和します。
- IT予算が常に制約され、オープンソースソフトウェアに対する業界の賞賛が高まる中で、エンタープライズオープンソースソフトウェアのサブスクリプションを選択するミドルウェア購買担当者が、ますます増加しています。彼らの判断は、エンタープライズクラスの安定性、品質、成熟したエンタープライズソフトウェア製品のライフサイクルを兼ね備えつつ、オープンソースソフトウェアの柔軟性、生産性、コスト面の利点を活かしたいという、強い願望に根ざしています。こうした選択の結果、より管理しやすいコスト構造、ミドルウェア環境の簡素化、スタッフの生産性向上、ミドルウェアの投資利益率の増大が実現しています。

より優れたソフトウェアモデル:エンタープライズオープンソース

コミュニティが主導するオープンソースプロジェクトの人気の高まりが、技術革新を促し、ソフトウェアの入手と利用に関する従来の足かせを弱めるのに貢献していることは確かです。これらの利点の代償は、ユーザーが管理と継続的なメンテナンスに責任を負わなければならないことです。

商用のエンタープライズオープンソースモデルは、従来のソフトウェアビジネスモデルの欠点に応じて生み出されました。

エンタープライズオープンソースの価値は、主に次の点にあります。

- ソフトウェアの利用方法のモデル
- 顧客の成功に欠かせないソフトウェアやサービスの提供をベンダに促すインセンティブ

コミュニティのみによって推進されるオープンソースプロジェクトは、共同作業、技術革新、問題解決を促進します。一方、そうしたプロジェクトは、通常、単一のベンダによって管理されていないため、機能上の進歩やバグ修正がコミュニティの合意に基づいたペースで進みます。そのため、これらのオープンソースプロジェクトの安定性やサポート能力に対して、企業が信頼を置けなくなる場合があります。

エンタープライズオープンソースは、ベンダが一連のオープンソースプロジェクトに多大なエンジニアリングリソースを投入し、不可欠な知識やスキルの土台が得られるようにしている点で異なります。そうした土台に基づいて、企業がそのソフトウェアをミッションクリティカルな環境に導入するために必要な安定性とサポート能力を築きます。こうした特性は、サブスクリプションモデルを通じて顧客に提供されます。サブスクリプションは、年間ベースで更新されます。1年後に顧客がソフトウェアに満足していない場合は顧客を失うリスクがあるため、新規顧客であれ、長年の得意先であれ、ベンダには、高い顧客満足度を保つことへの強力なインセンティブが働きます。

ベンダがフリーなオープンソースコンポーネントを超える価値を顧客に提供するため、顧客はエンタープライズオープンソースの年間サブスクリプション料金を支払います。この価値は、いかなる性質のものでしょうか。この文書の残りの部分では、JBoss Enterprise Middlewareサブスクリプションの主な利点を10項目にわたって説明します。

1. 影響力と裁量幅の拡大

JBoss Enterprise Middlewareを導入すると、お客様は高価で複雑なプロプライエタリソフトウェアに費やしていた予算を、戦略的なビジネス目標の達成に役立つ人材やプロジェクトに振り向けることができ、自社のIT予算に関する裁量の幅が広がります。

さらに、サブスクリプションモデルの特質から、お客様はベンダではなく、自社の条件に合わせてアップグレードできます。サブスクリプションは、当該ソフトウェアのすべてのバージョンについて、リリースされ次第、サポート、パッチ、アップデートの利用権をお客様に提供します。サブスクリプションを保有していれば、最新のバージョンを入手できます。ほかには何も購入する必要がありません。

2. コンポーネントではなく、エンタープライズプラットフォームの導入が可能

JBossコミュニティのプロジェクトは、それぞれ独自のリリーススケジュール、バージョン、ソフトウェア依存性を持つ、多くの独立したプロジェクトで構成されています。複数のコンポーネントを組み合わせて使用したいと考えているITスタッフにとって、こうした多様性が悩みの種になることがあります。さらに、コミュニティの貢献者は誰でも、オープンソースの正しい作法に従って、機能やアップデートをプロジェクトコードに追加する可能性があり、その中には、企業への導入をまったく念頭に置いていないものもあります。一部の開発者にとっては、これは問題ではありません。最新の機能を利用できるのと引き換えに、彼らは様々なオープンソースコンポーネントを入手、統合、クリーンアップ、テスト、およびアップグレードする複雑な作業にも進んで取り組みます。単に先進的なソリューションを追求しており、業務に使用できる安定したアプリケーションが要求されないのであれば、これは合理的なアプローチです。しかし、企業のITスタッフのほとんどは、そうした統合作業がすでに大方終わっているプラットフォームを利用したいと考えています。

そのため、JBoss Enterprise Middlewareの開発チームは、プラットフォームをコンポーネントから作成することで、コミュニティプロジェクトの開発スピードと、企業が求める特定のプラットフォーム機能や安定性を両立させています。この工夫は、2段階の製品化プロセスを通じて行われています。

まず、チームでは、プラットフォームとして連携させる複数のコミュニティプロジェクトを選択します。次に、企業の要件を満たす安定性、復元力、高度な機能を備えた無駄のないプラットフォームを生み出すため、それら未加工のコンポーネントに、製品レベルの厳格な単体テストと結合テストを適用します。

具体的には、様々なオペレーティングシステム、JVM、データベースの組み合わせで、パフォーマンス、スケーラビリティ、可用性、信頼性、互換性を徹底的にテストするなど、JBoss Enterprise Middlewareに対して、コミュニティでは行われないレベルのテストを行います。JBoss Enterprise Middlewareの開発者がコンポーネントの結合テストを実施済みであるため、ITスタッフは、個々のコミュニティコンポーネントから始めた場合よりもはるかに少ない労力で、アプリケーションのミドルウェアインフラストラクチャを実装できます。

それとは対照的に、そうした工夫のないコミュニティプロジェクトを利用しているITスタッフは、信頼性の低いソフトウェアコンポーネントが障害を起こす、複数のコンポーネントがうまく連携しないため、余計な開発や統合作業が大量に発生するなど、より大きなリスクに直面します。そうした企業では、開発者や運用管理者が問題のトラブルシューティングのために多大な時間を失う可能性があり、システムのダウンタイムやその他の障害によって、業務に支障が出る場合もあります。企業の水準を満たすプラットフォームであるJBoss Enterprise Middlewareは、IT部門がそうしたリスクを回避し、それらの機会費用を削減するのに役立ちます。

Red Hatの技術者は、JBoss Enterprise Middlewareプラットフォーム内で利用されるコミュニティプロジェクトの大部分を主導しています。そのため、Red Hatは、それらのプロジェクトのロードマップに圧倒的な影響力を持ち、コードも深く理解しています。これらのプロジェクトの製品化とサポートやメンテナンスに携わっているのは同じ技術者であるため、このプラットフォームは、他社では簡単に真似のできない、独特な組み合わせとなっています。

3. 予防的なセキュリティ管理

顧客データの侵害やアプリケーションの破損といった問題が深刻なビジネスリスクになりかねないため、すべての企業のIT部門がセキュリティを真剣に考慮しています。しかし、システムが複雑化しているため、ベンダのハードウェアやソフトウェアコンポーネントを1つ1つ解明していたのでは時間がかかり過ぎて、セキュリティ問題への対処は困難です。

JBoss Enterprise Middlewareのセキュリティ対策チームは、全世界のセキュリティ専門家で構成され、お客様のアプリケーションスタックに影響を与える可能性があるセキュリティ問題を予防的に監視しています。この活動は、サードパーティ製ソフトウェアレポートの監視、パートナーとの連携作業、独自テストの実施などを伴います。セキュリティ対策チームのメンバーがお客様の使用しているJBoss Enterprise Middlewareのバージョンを把握しているため、発生したセキュリティ問題によってお客様がどのような影響を受けるかをすばやく判断でき、必要ならパッチを作成して問題に対処できます。Red Hatがセキュリティ問題を常に監視しているため、お客様は自社チームの作業を最小限に抑えつつリスクを緩和できます。

それとは対照的に、コミュニティプロジェクトを利用しているITスタッフは、オープンソースコンポーネントに関連した潜在的なセキュリティ問題に関して、独力で対処しなければなりません。その結果、否応なく脅威の監視に費やす時間が長くなり、潜在的な脆弱性を見落とした場合の企業のリスクが増大します。さらに、そのようなITスタッフは、すべてのセキュリティパッチを適用し、十分にテストするために、プロジェクトのコードをよく理解している必要があります。

もう1つの重要な違いは、コミュニティとJBoss Enterprise Middlewareにおけるセキュリティパッチの発行方法にあります。コミュニティプロジェクトでは、最新リリース内のセキュリティ問題にパッチを適用しないのが普通です。通常はパッチだけでなく、新しい機能も含んだ新しいリリースを作成します。新しい機能には下位互換性がない場合もあります。そのため、セキュリティ修正を入手するには、コンポーネントをアップグレードし、それらに対して再び統合、テスト、認証のサイクルを適用する必要があります。

それとは対照的に、JBoss Enterprise Middlewareでは、機能の安定したリリースに対してセキュリティパッチが提供されるため、新しい機能を含む新リリースにアップグレードする必要はありません。

4. 予測可能な管理しやすいアップデートプロセス

オープンソースコミュニティのプロジェクトでは開発と機能拡張が常に進められますが、企業のIT部門は、ミドルウェアのアップデートがリリースされるたびに自社のアプリケーションスタックをアップグレードするわけではありません。IT部門では、ソフトウェアのアップデートを計画し、スケジューリングすることで、混乱を最小限に抑え、スタッフと事業の生産性を最大限に高めたいと考えています。企業経営上の要件から、次のようなソフトウェアアップデートのベストプラクティスが形成され、広く認められています。

- 優先度の格付けに基づいて問題を修正
- マイナーアップデートを定期的に行う
- 解決した問題と解決していない既知の問題を明確に通知する
- 重大な欠陥には可能なかぎり早くパッチを適用する
- ソフトウェアのアップデートはすべて徹底的なリグレッションテストを行う
- マイナーバージョンリリース内ではアップデートの下位互換性を保証する

これらのプラクティスは、プロプライエタリソフトウェアベンダに固有のものではありません。JBoss Enterprise Middlewareの開発チームも、同じ方法でソフトウェアアップデートを作成しています。その結果、JBoss Enterprise Middlewareのお客様は、予測可能な管理しやすい形で、一連のアップデートを利用することができます。このプロセスによって、IT部門では、不安定化をもたらす可能性もある関連コミュニティプロジェクトの急速な変更により左右されることなく、パッチの適用を計画できます。企業は、作成された修正をフル活用できるだけでなく、常に発展しているオープンソースコンポーネントの機能も、必要に応じて活かすことができます。

さらに、JBoss Enterprise Middlewareでは、バグ修正と機能拡張が完全に透明性あるプロセスで提供されます。お客様は、修正が行われる前でも、すべての問題を自由に調べることができます。これは、バグデータを顧客に公表しないことが多いプロプライエタリベンダとはまったく対照的です。JBoss Enterprise Middlewareのプロセスは透明性があるため、お客様は、バグ修正リリースまたは完全に新しいメジャーバージョンのどちらにアップグレードするかを、十分な情報に基づいて決めることができます。また、お客様は既知の問題と自社のケースの関連を調べて、十分に構造化したテスト計画を作成し、アップグレードプロセスを効率化することにより、総合的なコストを削減できます。

オープンソースコミュニティのソフトウェアコンポーネントを利用した場合、IT部門は欠陥に関する情報を（何らかの報告があると仮定して）コミュニティフォーラムに頼る必要があり、修正や機能拡張が将来リリースされるまで待たなければなりません。リリースされなければ、オープンソースコンポーネントを自ら修正して、標準外のソフトウェアを抱える危険をおかすことになります。それに対して、JBoss Enterprise Middlewareのお客様は、エンタープライズクラスの開発チームによって作成され、テストされたアップデートを利用できるため、ソフトウェアをアップデートしても、ビジネスリスクが増すことはありません。

5. 世界クラスのサポート

信頼性の高い安定したエンタープライズテクノロジプラットフォームの実現に加えて、Red Hatは、お客様がこれらのプラットフォームを最大限に活用できるように、世界クラスのサポートも提供しています。更新率は、Red Hatの実績を示す重要な指標です。しかし、評価担当者は、ミドルウェアソリューションのサポート品質を比較する場合、ベンダの言葉を取り上げるべきではありません。実際にソフトウェアを使用し、サポート技術者とやり取りし、問題を解決しているお客様がおられます。ソリューションを選択する前に、そのようなお客様の話を聞いてください。

JBoss Enterprise Middlewareの高品質なサポートは、以下のようないくつかの要因に支えられています。

- サブスクリプションモデルは、優れた顧客対応を促しています。JBoss Enterprise Middlewareのビジネスモデル全体が、顧客満足度をベースにしています。お客様がサブスクリプションを毎年更新するため、Red Hatとの関係から得ている利益を評価する機会が十分にあります。JBoss Enterprise Middlewareの開発チームの最も重要な優先課題は、ソリューションによってお客様の成功を保証することです。それに対して、プロプライエタリソフトウェアベンダは、新しい顧客を引き付ける機能の開発か、すでにライセンス料金を支払った既存の顧客を支える開発かを、常に選択しなければなりません。
- 高度に訓練されたサポートスタッフとやり取りできるため、チームの生産性が最大限に高まります。Red Hatは、比較的フラットな階層構造を持つ、高度に訓練されたサポートチームを展開しています。サポート技術者は、通常、8～10年の技術的経験を積んでおり、コードを理解してパッチを適用できます。さらに、エンタープライズ開発チームとコミュニティの中で様々なミドルウェアコンポーネントの開発に貢献してきた技術スペシャリストが、詳細な質問に答えるために待機しています。そのため、サポートを要請した開発者が、技術的問題に対処できない窓口担当者とのやり取りに時間を浪費する必要はなく、チームの生産性が向上します。
- オープンソースが問題解決を効率化します。ソースコードへのオープンなアクセスは、問題の解決を簡単にします。ソースコードを利用できるため、開発者とJBoss Enterprise Middlewareのサポートスペシャリストが、問題を迅速に突き止めて解決できます。プロプライエタリソフトウェアで多段階のプロセスが必要になるのとは対照的です。さらに、Red Hatのコードすべてがオープンソースであるため、コミュニティを常時チェックし、コミュニティとやり取りして、プロジェクトの広範な使用とテストを促すことにより、Red Hatはコミュニティを活用できます。オープンソースでは、新しい機能やバグ修正に関する現場からのフィードバックが、他の方式よりも早く得られます。
- 無制限のサポートによって、最大限に効果的な問題解決がはかれます。JBoss Enterprise Middlewareでは、サポートインシデントの数の制限がありません。必要なときに必要な助力を得られれば、お客様はそのソフトウェア、およびRed Hatとの関係から、それだけ多くの価値を得られるというのが、Red Hatの基本的な考え方です。

6. ソフトウェア専門家による信頼性の高い助言

開発者や設計者は、JBoss Enterprise Middlewareの開発チームを通じて、ソフトウェアのベストプラクティスに精通し、ミドルウェア、アプリケーション開発、および管理の最新の進歩を取り入れています。Red Hatは、次の2通りの方法で、そうした専門技術をお客様のための価値に変えています。

第1に、JBoss Enterprise Middlewareは、全世界の何千人もの開発者の累積的な英知を反映した、オープンなリファレンスアーキテクチャにほかなりません。

第2に、JBossの開発チームはお客様と緊密に連携して、その課題を理解し、様々な問題について助言することにより、お客様の時間とコストを節約します。JBoss Enterprise Middlewareのサポート技術者は、幅広い技能を身に付けた、経験豊富な技術の専門家であり、ソフトウェアに関する質問に答え、欠陥を報告し、技術的問題を解決するだけでなく、アプリケーションのアーキテクチャから、設計上の判断、評価のための技術、データセンター構成のベストプラクティス、ビジネスアプリケーションの最新動向に至るまで、様々な問題についてお客様に助言できます。これらの専門家たちは、コミュニティプロジェクトの欠かせない参加者でもあり、プラットフォームの要件をコミュニティやRed Hatの技術者に伝え、ロードマップにお客様の要求が反映されるように保証しています。

7. アプリケーションインフラストラクチャの長期的な安定性

ほとんどのビジネスアプリケーションは少なくとも3年間は使用されるため、現在導入しているバージョンに対するベンダのサポートが打ち切られるからといって、新しいミドルウェアバージョンへのアップグレードを強制されるのは、不愉快以外の何物でもありません。大部分のプロプライエタリベンダは長期的な安定性を提供しますが、コミュニティプロジェクトはそうではありません。お客様のアプリケーションインフラストラクチャの長期的な安定性を確保するため、Red Hatでは、JBoss Enterprise Middlewareの新しいリリースごとに、少なくとも5年間の完全サポートを保証しています。これは、たとえば、欠陥やセキュリティホールに対して、リリース日から少なくとも5年間はRed Hatがパッチを提供するということです。

8. 最先端ソフトウェアのソースコードへのオープンなアクセス

オープンソースのソフトウェア開発手法は、共同で作業した方が大きな成果が得られるという考えに基づいています。ソースコードを所有者だけが利用できる私有の情報と捉えるプロプライエタリソリューションとは異なり、オープンソースソフトウェアは、設計や実装において誰もがソースコードにアクセスできることが強みです。JBossコミュニティのプロジェクトとJBoss Enterprise Middlewareソリューションは両方とも、数多くの英知が協力してミドルウェアコンポーネントの最適な改良方法を定める、オープンな開発プロセスの恩恵を受けています。その結果、様々な観点を活用して最先端の進歩を生み出す、迅速な反復型の開発が実現しています。コードは、そのプロジェクトに貢献している多くの開発者に対応した、様々な環境でテストされます。そのようなオープンソースでは、ベンダとユーザーがクローズドソースよりも広い舞台上、コードの妥当性（機能やAPIなど）に関する迅速なフィードバックを利用できるため、コードがユーザーのニーズとその変化に適宜すばやく対応します。

JBossコミュニティのフリープロジェクトを利用しても、JBoss Enterprise Middlewareにサブスクリプションしても、お客様のITスタッフは常にソースコードを利用できます。こうした可視性が保証されるため、プロプライエタリソリューションに比べて、ミドルウェアに関するお客様の裁量の幅が広がります。

9. 広範なパートナーエコシステム

Java EEテクノロジーの利用が拡大する中、企業はJBoss Enterprise Middlewareのパートナーエコシステムの幅と深さに安心感を覚えています。この世界的なパートナーネットワークには、Red Hatアドバンストビジネスパートナーとなった地域のシステムインテグレータやコンサルティング会社、グローバルなシステムインテグレータ、関連技術分野で業界最高水準の自社製品を販売しているテクノロジーISV、それにJBoss Enterprise Middlewareプラットフォーム上で実行したり、JBoss Enterprise Middlewareプラットフォームを組み込んだりする自社製品を開発している何百社ものアプリケーションISVが含まれます。ソフトウェア、コンサルティング、インテグレーション、トレーニング、ホスティングを手がけるパートナーで構成されたこの広範なネットワーク全体が、JBoss Enterprise Middlewareプラットフォームをサポートしており、各社はコミュニティベースのプロジェクトでは積極的な役割を果たしていません。

10. ミドルウェアの将来に対する影響力

巨大なプロプライエタリベンダが関わる製品の方向性を左右するのは、何千もの意見を乗り越え、クローズドな開発モデルを打ち破る必要があるため、不可能に近いことです。コミュニティプロジェクトでは、参加者が推奨意見を投稿できますが、意見が受け入れられた場合でも、プロジェクトは依然としてサポートなしで、長期的なパッチやアップデートの保証はありません。JBoss Enterprise Middlewareにサブスクライブすると、お客様は限定されたグループの一員となり、お客様のニーズには細心の注意が払われます。コミュニティでは、JBossがそれ自体のプロジェクトや他のプロジェクトに対して大きな影響力を持つため、お客様の意見が増幅されます。

お客様とRed Hatの関係においては、信頼に基づいた助言が双方向に行き交います。お客様の声に耳を傾けることなくしてRed Hatの成功はありません。Red Hatがお客様の事業を全面的にサポートするには、お客様のアプリケーションインフラストラクチャの要件だけでなく、お客様の将来のニーズも理解する必要があります。交代制のお客様向け助言機関、お客様との継続的な対話、対応能力に優れたサポート部門を通じて、Red Hatは常にすべてのお客様の声に耳を傾けます。Red Hatは、JBossコミュニティとJBoss Enterprise Middlewareに対する影響力によって、ソフトウェアのロードマップがお客様のニーズを最優先して作られるように保証しています。

結論

JBoss Enterprise Middlewareに見られるようなエンタープライズオープンソースモデルは、プロプライエタリソフトウェアに由来伴っていた安定性、管理性、サポートを求めつつオープンソースソフトウェアを活用しようとしている企業に、多大な恩恵を与えています。JBoss Enterprise Middlewareにサブスクライブすると、企業は、それらの両面で最も優れたテクノロジーとサービスを利用でき、しかもフリーなオープンソースコンポーネントの使用に伴う余計な管理作業やビジネスリスクに悩まされることがありません。

企業におけるJBoss Enterprise Middlewareサブスクリプションの有効性に関するその他の情報については下記までお問い合わせください。

お客様からのお問い合わせ先

お問い合わせ先
<サービス時間>
平日9:30~18:00

セールスオペレーションセンター (SOC)

TEL: **0120-266-086** (携帯電話からは03-5798-8510)

e-mail: sales-jp@redhat.com URL: //www.redhat.com

レッドハット株式会社
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 4-1-18 恵比寿ネオナート 8 階
TEL(代表): 03-5798-8500 FAX(代表): 03-5798-8599